

## Abstract

米国の対中輸出管理政策

——エマージング・テクノロジーと経済安全保障

小野 純子（安全保障貿易情報センター副主任研究員）

輸出管理の世界で「エマージング・テクノロジー」という用語が際立って注目されるようになったのは、アメリカで2018年に成立した「2019年国防権限法」で取り上げられてからである。その背景には、2017年頃から燻り始め現在大きな炎として国際社会を巻き込んで繰り広げられている米中貿易戦争の存在がある。経済的な依存度が相互に高い二国間における貿易を軸とした対立はかつてないほど深刻化しており、あからさまな軍事力の行使には至らないものの、先端技術の宝庫である民間企業や大学までをも巻き込み、その対立の勢いは激しくなる一方である。本稿では両国の貿易や機微技術をめぐる対立が歴史的にどのように展開され、今後、日本がどのように経済安全保障と向き合うべきかを考察したものである。